

# 発達の世界

## “あんまりお役に立たない” 発達のお話

### 第9回 発達を見る顕微鏡

#### ——なべちゃんのこと 道行き編——



人間発達研究所 中村隆一

なかむら りゅういち / 1954年生まれ。大津市で乳幼児の発達相談に長年携わる。現在、立命館大学教授、人間発達研究所所長。著書に『発達の旅—人生最初の10年 旅支度編』(クリエイツかもがわ)など



■では、なべちゃんの実際の行動を  
みてみましょう

ここはいったんナレーションや田中昌人さんのコメントから離れて、実際のなべちゃんの行動を、田中昌人さんの一次元可逆操作という顕微鏡を用いて、「いつて、もどって、またすすむ」という分析単位を取り出しながら考えてみましょう。

#### 朝の場面

前回紹介したなべちゃんが、最初に登場する場面です。

第二びわこ学園の朝の慌ただしい時間、室内の中央になべちゃんが紐で縛られ椅子に座っています。目の前を職員と園生が通り過ぎるのを見ながら、靴下に手をやり一度はひっぱりますが、脱ぎはしません。

その後、ふと気がついたように、わざわざ椅子をおしりにつけた状態で立ち上がります。

そこへ、女の子がおおきな洗濯物の入ったバケツを運んできて、ちょうどなべちゃんの目の前にどんとおきます。女の子は、その場にいる他の園生たちに、身振りも大きく、何かを話しています(映画ではこの場面はその音声が入っていません)。女の子は、時に思いがあふれるのか、自分の頭もたたきながら、話し続けています。おそらく「みんなも、ちゃんと洗濯手伝って!」ということなのでしょう。

なべちゃんは、難聴もあるので、その話し声はとどいていません。そのため、この女の子の方にほとんど視線を向けたりはしませんが、なにかしら神妙な顔で、立ちかけたのを止めて椅子を再び床に置いて、座り直します。

その後、女の子は、そのバケツを押しなべちゃんの前を通り過ぎます。すると、なべちゃんは、立ち去る女の子を見送るかのように視線をむけます。《椅子を持って移動しようと立つ・座り直す・女の子に視線を向ける》



を駆け抜けようとはしますが、そのときにふと走るのをやめ、いったん紐をほどいてくれた職員の方を振り返ります。そして数歩振り向きながら前に進み、そしてダッシュして、廊下の先の部屋にはいります。正面の部屋には、多くの園生がいますが、そこには入らずだれもない部屋の中に入り、開いていた窓を見つめます。

《紐をほどかれてダッシュ・止まって職員の方を振り返る・再びダッシュ》



#### その次の場面

ベッドの中で紐で縛られているなべちゃん。やはり表情はさえません。

立った姿勢で自分のおむつをとろうとしていますが、ズボンを途中までおろして、とり去ったおむつを一枚ずつはずし、その後ベッドに腰をおろします。そこに職員が現れ、なべちゃんを抱きかかえるようにしてベッドからおろします。手ばやく紐をほどき、ズボンをあげ、なべちゃんを自由にします。勢いよく走り出したなべちゃんは、別の職員の横

半開きの窓をシュッと開けて、背伸びして窓枠のろうと体重をかけますが、上半身を窓から出した後、元に戻って向きを変え、さらに別の部屋に入っていきます。《窓から身を乗り出す・戻る・別の窓を開ける》その掃き出し窓をやはり勢いよくあけて、外に出ます。